

Lisfranc 靭帯損傷に対して Mini TightRope[®] を使用した 1 例

○松井 智裕 (まつい ともひろ)(MD)¹⁾, 熊井 司 (MD)²⁾, 田中 康仁 (MD)³⁾

¹⁾ 阪奈中央病院 スポーツ・関節鏡センター

²⁾ 奈良県立医科大学 スポーツ医学講座

³⁾ 奈良県立医科大学 整形外科

Lisfranc 靭帯損傷に対して Mini TightRope[®] を使用して良好な結果が得られた 1 例を経験したので報告する。症例は 24 歳女性。バドミントンの試合中にジャンプの着地に失敗して足部を捻挫した。左中足部に腫脹を認め、内側 Lisfranc 関節上に圧痛を認めた。単純 X 線では内側楔状骨 - 第二中足骨間の離開ははっきりしなかったが、CT で第二中足骨基部底側の骨折 (Fleck sign) を認めたため Lisfranc 靭帯損傷と診断した。疼痛が強く、今後もバドミントンを続けたいという意向から手術加療に至った。

手術は伝達麻酔下に仰臥位で行い、内側楔状骨 - 第二中足骨間を骨把持鉗子で整復したうえで、Mini TightRope[®] にて固定を行った。次に内側楔状骨 - 中間楔状骨間を中空スクリューにて固定した。術後は 2 週間のシーネ固定を行った後に部分荷重を開始し、術後 8 週で全荷重を許可した。現在、術後 10 週で疼痛なく日常生活をおこなっている。

Lisfranc 靭帯損傷の手術加療としては Screw による固定の報告が多いが、合併症として内側楔状骨 - 第二中足骨間 Screw の折損が報告されており、全荷重を開始する前に抜釘することが推奨されている。今回使用した Mini TightRope[®] は抜釘をする必要はなく、固定性も良好でありながら、生理的な micro motion を許容するという靭帯に近い性質を持つ。また、移植腱を用いた靭帯再建のように煩雑さはなく、侵襲も小さくて済むため有用な治療法である。